

## ● ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018

### 3か年中期経営計画

リケンテクノスグループは、2016年4月に3か年中期経営計画を始動させ、今年最終年度を迎えました。「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018～すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して～」という経営方針を掲げ、5つの主要課題に取り組んでおります。リケンテクノスグループの製品は、世界中で自動車、家電、電線、住宅、生活資材、医療機器など様々な分野でご採用いただいていることから、「すべての生活空間に快適さを提供する」ことを経営方針としています。経営課題を一つひとつ解決していくことが、そのまま社会の貢献につながっていきます。そのために、あらゆるステークホルダーとさらに強固なパートナーシップを築き、リケンテクノスグループの社員も一丸となって、「ACT NOW! ACT TOGETHER!」のもと、課題解決に取り組んでまいります。

## ● 国際社会の一員としての責任

### 持続可能な社会を目指して

国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にある普遍的目標であるSDGs(エスディージーズ/Sustainable Development Goals)や環境省による「プラスチック資源循環戦略」など、持続可能な社会を実現するための取り組みがますます盛んになってきています。リケンテクノスグループの生産しているものは高機能プラスチック製品のため、使われている製品

は、産業廃棄物として分別され廃棄・リサイクルされるものが大半を占めますが、廃棄・リサイクルも視野に入れた製品開発と燃費向上などの環境負荷低減のための製品開発などを積極的に行い、国際社会の動きと連動し、責任を果たしてまいります。

### すべてのステークホルダーの皆様と共に

将来にわたり実りある豊かな社会を維持するため、これまでもリケンテクノスグループは、お客様、お取引先様、従業員、株主様、地域の皆様などすべてのステークホルダーの皆様と共に歩み、社会の課題解決に努めてまいりました。リケンテクノスグループは、様々なかかわりを通じ、ステークホルダーの皆様と信頼関係を築き、今日まで存続・発展することができました。そして、これからもその姿勢を変えることはありません。本CSR報告書では、リケンテクノスグループを支えてくださるステークホルダーの皆様とのかかわりについて報告しております。是非、ご覧ください。

### 特集

本CSRの特集では、様々な製品が皆様のお手元に届くまでの「もの造り」の大きなバリューチェーンの中で、リケンテクノスグループがどのような役割を果たしているのかをご紹介します。すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指しながら、同時に環境負荷低減のための取り組みをご理解いただければと思います。

私たちは、持続可能な社会の実現に向け、これからもステークホルダーの皆様と共に歩んでまいります。今後ともさらなるご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

常盤 和明



### プロフィール

常盤和明(ときわ・かずあき)

1983年(昭和58年)千葉工業大学工学部卒、同年理研ビニル工業(現リケンテクノス)入社。07年米国リケンエラストマーズコーポレーション社長、11年コンパウンド事業部副事業部長兼コンパウンド営業部長、13年4月取締役経営企画室長。16年4月1日代表取締役社長執行役員に就任。  
神奈川県出身、57歳。



2018年版のCSR報告書では、バリューチェーンについての特集を組んでおります。特集をご覧いただければ分かる通り、当社の製品の多くは、石油由来の樹脂を原材料としています。将来における石油枯渇のリスクを踏まえると、非石油系の原材料を元にした製品の開発は、リケンテクノスグループにとって大きなテーマのひとつです。現在は、石油由来の原材料に比べると非石油系の原材料は価格が高いという課題がありますが、地球環境をサステナブルなものにしていくためには、原料ソースを多様化させる、つまり非石油系の原材料について積極的に開発を進めていくことが不可欠であり、当社においても環境対応を意識した取り組みとしてSDGsに向けた活動につなげていく必要があると考えます。

また、日本が変革していくなか、リケンテクノスグループも「働き方改革」を強化していきたいと考えております。社員一人ひとりが効率よく仕事をこなすことが、「働き方改革」につながると考えております。現在の倍ほどのスピード感で進むために仕組みづくりが必要で、そのためには様々なツールやテクニック、ノウハウを活用していかなければなりません。会議のあり方についても見直しが必要です。上司と部下の垣根を越えて皆が闊達に議論できる「言える化」を目指し、より効率的な運営を目指していきます。そして、社員自身が先を読んで行動していくことが最も大切で、まずは周囲を観察し、情報をキャッチし、分析することから、先を読んだ行動に落とし込むことで、場当たりの対応ではなく、効率的な取り組みとなり、お客様との信頼関係も深まります。様々な場面で社員の働き方が変わることで、リケンテクノス ウェイの実践にもつながっていくと確信しております。

今後とも、変化を恐れずチャレンジし続けるリケンテクノスグループに対し倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

代表取締役会長 清水 浩

## ● 役員紹介

### 取締役



代表取締役  
会長  
清水 浩



代表取締役  
社長執行役員  
常盤 和明



代表取締役  
専務執行役員  
営業本部長  
住吉 正充



取締役  
常務執行役員  
管理本部長  
入江 淳二



取締役  
上席執行役員  
経営企画本部長  
梶山 学之



取締役  
常勤監査等委員  
小泉 真人



社外取締役  
監査等委員  
早川 貴之



社外取締役  
監査等委員  
中村 重治



社外取締役  
監査等委員  
柴田 一眞

### 執行役員 (取締役兼務者を除く)



上席執行役員  
技術本部長  
兼 情報電子ビジネス  
ユニットマネージャー  
大谷 寛文



上席執行役員  
品質保証本部長  
田坂 道久



上席執行役員  
RIKEN AMERICAS  
CORPORATION 取締役社長  
兼 RIKEN ELASTOMERS  
CORPORATION 取締役社長  
島田 高志



執行役員  
RIKEN (THAILAND)  
CO., LTD. 取締役社長  
植山 俊一



執行役員  
技術本部 副本部長  
兼 研究開発センター長  
杉野 等



執行役員  
購買本部長  
杉江 剛



執行役員  
フィルム統括部長  
兼 建材・建築材ビジネス  
ユニットマネージャー  
登坂 真史



執行役員  
PT.RIKEN INDONESIA  
取締役社長  
佐藤 敏幸



執行役員  
製造本部長  
輿水 宏人